

## ピオグリタゾン錠「NP」を 服用される患者さんへ

ピオグリタゾン錠「NP」は、インスリンが働きにくい状態を改善したり、肝臓での糖の産生を抑えて、高血糖を改善するおくすりです。



(実物大)

## おくすり（ピオグリタゾン錠「NP」）を 飲むときに注意すること

(1)主治医の先生あるいは薬剤師の先生の指示どおりに服用しましょう。  
通常、成人は1日1回、朝食前又は朝食後に服用します。

### ●飲み忘れた場合の対応

昼までに飲み忘れに気付いた場合は、1回分をすぐに飲んでください。ただし、昼すぎに飲み忘れに気付いた場合は、1回とばして次の時間に1回分飲んでください。(決して2回分を一度に飲まないでください。)

(2)本薬の服用により、低血糖症状を起こすことがあります。低血糖症状を起こすことがあることを必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。

### ●低血糖症状とは？

◆血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感や、力の抜けた感じ、冷や汗、手足のふるえ、目のちらつき等が起こったり、頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。はなはだしい場合には、けいれんを起こしたり意識を失うこともあります。

- ◆空腹時に起こりやすく、食べ物をとると急によくなるのが特徴です。
- ◆この薬とほかの糖尿病の薬(血糖を下げる薬)を併用した場合に、低血糖症状を起こすことがあります。特にインスリンとの併用で多くなることが報告されています。
- ◆低血糖は危険な状態ですから、もし起こったら軽いうちに治してしまわなければなりません。



### ●この薬を服用しているときに低血糖症状が起こったら？

- ◆低血糖症状があらわれても軽いうちは糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとると治ります。日頃から糖分(例：砂糖20g)を持ち歩き、すぐその場でとることが必要です。がまんしてはいけません。

ただし、アカルボース(商品名：グルコバイ等)、ボグリボース(商品名：ベイスン等)、ミグリトール(商品名：セイブル等)を併用している場合には砂糖は不適切です。これらの薬剤は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、必ず**ブドウ糖(10g)**をとってください。

- ◆十分注意していても、ときには意識を失うような強い低血糖症状が起こらないとも限りませんから、自分は現在糖尿病で薬を飲んでいることを書いたカードを身につけておき、すぐに治療してもらえるようにしておくことが安全です。
- ◆低血糖症状を起こした場合は、必ず早目に主治医の先生に報告してください。

●**低血糖を起こさないために**

- ◆薬の量や飲み方は主治医の先生の指導を正しく守ってください。
- ◆食事を減らしたり、抜いたり、とる時間を遅らせたりしないよう食事療法はきちんと守ることが大切です。
- ◆お酒の飲み過ぎ、激しい運動や空腹時の運動などは低血糖を起こしやすくしますので主治医の先生の指導を正しく守ってください。

●**高所作業や自動車の運転等危険を伴う機械を操作している時に、低血糖を起こすと事故につながります。特に注意してください。**

(3)本薬の服用により、むくみ（浮腫）や体重の増加がみられ、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状がみられることがあります。とくに心臓の病気（心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など）のある患者さんや、インスリンを併用している患者さんにはご注意ください。

●**むくみ（浮腫）**

むくみ（浮腫）のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫れぼったくなるなどの症状がみられることがあります。

●**体重増加**

体重の増加がみられることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。

●**息切れ、動悸**

労作時に息が切れたり、動悸がする（心臓がドキドキする）などの症状がみられることがあります。症状が進行すると、安静にしているてもこのような症状があらわれることがあります。



むくみ（浮腫）・  
急激な体重増加



息切れ



動 悸

**(4)むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状が起こったときの処置**

むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状に気づいた場合には、本薬の服用を中止してください。そして、主治医の先生に連絡をとるなどして、相談してください。

**(5)本薬の服用と膀胱（ぼうこう）がんについて**

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- ・膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、主治医に伝えてください。
- ・また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状がみられた場合には、主治医に相談してください。
- ・くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。

**●血尿**

尿が赤くなることがあります（痛みを伴わない場合が多い）。

**●頻尿**

排尿の回数が増える場合があります。

**●排尿痛**

急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられることがあります。

**(6)そのほかに本薬の服用中に次のような症状があらわれることがあります。**

- ・食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- ・脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- ・みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- ・発熱、咳、息苦しい

これらの症状に気づいた場合は、主治医に相談してください。

